



# みえの 子ども 白書

～2016～

三重県

# 三重の子どもたち、大人たちへ

～子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる地域社会づくりに向けて～

「子どもは、一人ひとりかけがえのない存在である。」

平成23年4月に施行した三重県子ども条例はこの一文で始まります。子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる地域社会、これは私たちの願いです。

子どもを取り巻く環境は、インターネットの普及や生活スタイルの変化などによって複雑かつ多様化しています。また、共働き世帯が増え、ひとり親家庭も増加するなど家族のあり方も多様化し、地域の絆が薄れる中で、児童虐待の相談件数が増加傾向にあり、我が国の子どもの貧困率が16.3%であるなど、子どもに関わるさまざまな問題が顕在化しています。

これらのことから県では、平成27年3月に、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざす「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」を策定し、取組を進めています。

この「みえの子ども白書2016」は、プランに基づくさまざまな取組の参考とするため、子どもや保護者、県民の皆さんへのアンケート調査の結果を中心に作成しています。

私は、子どもが自分らしくいきいきと育つためには、子ども自身が夢や将来の希望を持ち、自分を大切な存在であると信じていることができる「自己肯定感」が何よりも大切であると思っています。

今回のアンケート調査から、「周囲の大人の関わり」と「子どもの自己肯定感」に関係があることや、「さまざまな体験や経験」と「子どものコミュニケーション能力」に関係があることなどが見て取れます。一方で、近所の子どもをほめたり、注意してくれる地域の大人が減り、子どもの育ちを見守り、応援したいと思う大人の割合も減少しているという結果も出ています。

家族のあり方が多様化し、地域の絆が薄れている今だからこそ、家庭や地域、学校などにおける周りの大人の関わりが、「子どもの育ち」にとってこれまで以上に重要になっていると思います。

この白書をご覧いただき、大人の皆さんには、子どもたちの笑顔あふれる地域社会づくりに向けて、できることから行動していただきますようお願いいたします。

子どもたちには、みんなの幸せを願い、大切に思っている大人が周りにたくさんいることを知ってほしい、そして、夢や将来の希望を持って自分らしく生きてくれることを願います。

平成28年(2016年)2月

三重県知事 鈴木英敬

# 目次

## ●はじめに

「みえの子ども白書2016」刊行にあたって ……2

「みえの子ども白書2016」の全体像 ……4

## ●第1章 子どもの生活…7

### 第1節 子どもと家庭

(1)家庭での生活 …… 8

(2)学習時間等 …… 14

(3)家族の学校行事への参加状況 …… 19

### 第2節 子どもと学校

(1)学校生活 …… 20

### 第3節 子どもと社会

(1)地域との関わり …… 22

(2)社会に対する興味・関心 …… 23

## ●第2章 子どもの気持ち…25

### 第1節 子どもの自己肯定感

(1)自尊意識 …… 26

### 第2節 子どもの規範意識

(1)規範意識 …… 30

### 第3節 子どもの悩みと相談相手

(1)子どもの悩みと相談相手 …… 33

## ●第3章 子どもと大人…37

### 第1節 家族との関係

(1)家族との会話・対話の状況 …… 38

(2)子どもに関する保護者の悩み …… 44

(3)子どもの育ちにおける保護者の役割 …… 45

### 第2節 子どもに対する大人の理解

(1)大人からの愛情 …… 46

(2)大人の理解 …… 49

### 第3節 子どもの自己決定

(1)大人の傾聴姿勢 …… 51

(2)今の子どもの特徴 …… 55

### 第4節 子どもの体験

(1)子どもの体験 …… 57

## ●第4章 子どもと地域…61

### 第1節 子どもと近所との関わり

(1)子どもの育ちへの応援 …… 62

(2)近所とのつきあい …… 62

(3)近所の人と子どもとの関係 …… 63

(4)子どもが育つために取り組みたいこと …… 66

### 第2節 子どもと地域の大人との関わり

(1)子どもへの大人の関わり …… 67

### 第3節 子どもの地域への愛着

(1)地域への愛着 …… 70

## ●第5章 家族を持つこと…73

### 第1節 高校生の結婚観や子どもを持つことの意識

(1)高校生の結婚観 …… 74

(2)高校生の子どもを持つことに対する意識 …… 76

### 第2節 子育てなどについての意識

(1)少子化に対する危機感 …… 78

(2)未婚化・晩婚化の理由 …… 79

(3)男性の育児参画の考え方 …… 80

(4)祖父母による育児・家事の手助け …… 81

(5)理想とする家族の住まい方 …… 82

## ●資料編 -三重の子どもをとりまく現状- ……83

## ●三重県子ども条例に基づく 調査の結果概要(単純集計)…97

# はじめに

## ～「みえの子ども白書 2016」刊行にあたって～

---

平成 23 年 4 月 1 日に施行した三重県子ども条例（以下「条例」といいます。）は、「子どもが豊かに育つことができる地域社会づくり」に向けて、地域のさまざまな主体がともに連携して取り組むために必要な事項を規定したものです。

条例の前文では、

「全ての子どもには自ら育つ力と多くの可能性があり、子どもは自分が受け止められ、認められていると実感することで自己肯定感を高めることができる。また、子どもは、家庭や学校を始めとする地域社会での経験を通して、人との様々な関わりや多様な価値観に触れることで、人を思いやる心や自らの課題を乗り越える力を身に付けることができる。そして、次の世代を大切に育てることのできる大人へと育っていく。そのために、人と人とが強い絆で結ばれた地域社会を形成し、子ども一人ひとりが力を発揮して育つことができる社会へと向かうことが求められている。」

としています。

また条例第 14 条では、

「知事は、子どもの生活に関する意識、実態その他のこの条例に基づき県が行う施策の推進に必要な事項を調査し、その結果を公表するものとする。」としています。

地域の絆が薄れる中で、ひとり親家庭が増加するなど家族のあり方が多様化し、児童虐待の相談件数が増加傾向にあるなど、子どもに関わるさまざまな問題が顕在化している現状が、資料編のデータなどからも、改めて浮き彫りになっています。

県では、平成 27 年 3 月に策定した「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」に基づき、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざして、さまざまな取組を進めているところです。

本書は、平成 27 年度に県が実施したアンケート調査(子ども調査、保護者調査、県民調査)の結果を中心に、子どもの生活実態や意識、周りの大人の意識や地域社会の状況などについてまとめています。

特に、小学生や中学生、及びその保護者を対象とした調査については、市町毎に小・中学校をそれぞれ 1 校ずつ抽出して調査の協力をお願いしたところであり、回答の中にはさ

さまざまな家庭環境の子どもが含まれています。

### (アンケート調査の概要)

- ・調査時期 平成27年7月～8月
- ・調査対象、件数等

子ども調査	小学5年生	市町立小学校を市町毎に各1校計29校、 県立特別支援学校3校、私立小学校1校から抽出。 有効回収数 1,236件
	中学2年生	市町立中学校を市町毎に各1校計29校、 県立特別支援学校3校、私立中学校1校から抽出。 有効回収数 1,533件
	高校2年生	県立高等学校11校、県立特別支援学校3校、 私立高等学校1校から抽出。 有効回収数 1,103件
保護者調査		上記の小学5年生、中学2年生の保護者 有効回収数 2,424件
県民調査		各市町の選挙人名簿に基づき無作為抽出 有効回収数 1,441件

- ・調査主体 三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課
- ・調査委託機関 株式会社コミュニケーションサービス

### (地域別補正の実施)

県民調査について、前回(平成23年度)調査では5地域(北勢、伊賀、中南勢、伊勢志摩、東紀州)毎に2ないし3市町を選定し、調査対象者を抽出しましたが、今回の調査では、選挙人名簿登録者数の比率に基づいて、すべての市町から調査対象者を抽出しています。

また、すべての市町毎に1校ずつ選定して実施した市町立小中学校の児童生徒及びその保護者を対象とする調査について、前回調査では、1校あたり70人を基本として調査対象者を抽出しましたが、今回の調査では、各市町の児童生徒数を基本として抽出しています。

このため、前回調査との比較を行うにあたり、県民調査や小学生、中学生及びその保護者を対象とする調査については、前回調査の結果について地域別の補正を行っています。

なお、高校生を対象とする調査については、前回調査と調査対象者の抽出について大きな違いがないことから、地域別の補正は行っていません。

### (注)

- ・本書の図表において、「その他」や「無回答」の数値などについては記載を省略している場合があります。また比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入していることから、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ・一部の図表に記載のある「n=〇〇(数字)」は、その設問における回答者数を表しています。

# 「みえの子ども白書2016」の全体像

全国学力・  
学習状況調査

平成19年度から小・中学生  
を対象に文部科学省が実施  
している調査

## 三重県子ども条例に基づく調査

子ども調査(アンケート)  
小・中・高 合計3,872件  
(特別支援学校含む)

[主な項目]

- 家族との会話
- 自己肯定感
- 「大切にされている」か
- 「意見を聞いてくれている」か
- 近所の人との関係
- 結婚や子どもを持つことの意識

保護者調査(アンケート)  
小・中 保護者 合計2,424件  
(特別支援学校含む)

[主な項目]

- 子どもの自己肯定感
- 子どもの「意見を言っている」か
- 子どもの体験
- 子どもが自分でできること
- 子どもが「大切にされている」か
- 地域での取り組み

県民調査(アンケート)  
20歳以上の県民 1,441件  
(選挙人名簿から無作為抽出)

[主な項目]

- 近所の子どもの関係
- 子どもの育ちへの応援
- 男性の育児参画
- 理想の家族の住まい方
- 祖父母による育児・家事の手助け
- 少子化への危機感

統計データ

- 国勢調査
- 人口動態統計
- みえ県民意識調査 等

## 調査結果など

### 第1章 「子どもの生活」

子どもの生活実態を明らかにします。

- ◆ 第1節 「子どもと家庭」
- ◆ 第2節 「子どもと学校」
- ◆ 第3節 「子どもと社会」

### 第2章 「子どもの気持ち」

子どもの内面的な実態を明らかにします。

- ◆ 第1節 「子どもの自己肯定感」
- ◆ 第2節 「子どもの規範意識」
- ◆ 第3節 「子どもの悩みと相談相手」

### 第3章 「子どもと大人」

子どもと大人の関係のなかでの相互の意識を  
明らかにします。

- ◆ 第1節 「家族との関係」
- ◆ 第2節 「子どもに対する大人の理解」
- ◆ 第3節 「子どもの自己決定」
- ◆ 第4節 「子どもの体験」

### 第4章 「子どもと地域」

子どもの育ちを支える地域の実態を明らかにします。

- ◆ 第1節 「子どもと近所との関わり」
- ◆ 第2節 「子どもと地域の大人との関わり」
- ◆ 第3節 「子どもの地域への愛着」

### 第5章 「家族」をもつこと

結婚や子どもを持つこと、  
子育てなどに対する気持ちを明らかにします。

- ◆ 第1節 「高校生の結婚観や子どもを持つことの意識」
- ◆ 第2節 「子育てなどについての意識」

資料 三重の子どもをとりまく現状

## 調査結果から見えてくること

子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる  
地域社会づくりに向けて

子どもの自己肯定感と家庭や地域、学校における大人の関わりに関係がみられる



子どもが自己肯定感を高め、夢や将来の希望を持って、自分らしくいきいきと育つためには、**地域や家庭、学校などにおける周囲の大人の関わり**が重要

近所付き合いの程度が下がり、近所の子どもをほめたり、子どもの育ちを見守り、応援したいと思う大人が減っている。また、近所の大人からほめられたことのある子どもほど「自分のことが好き」と答えている



**子どもの育ちや子育て家庭を支える地域の力**を高めることが重要

「子どもの体験や経験」と「コミュニケーション能力」に関係がみられる。多くの大人が異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動することが重要と考える



**子どもが自然体験やスポーツなどを楽しむことができる環境**づくりが重要

赤ちゃんや小さい子どもとふれあった経験と高校生の結婚観や家族観に関係がみられる



個人の考え方や価値観を尊重することを大前提としたうえで、若者が結婚や子どもを持つことに関心を持てるよう、**赤ちゃんや小さい子どもとのふれあい体験を含めたライフプラン教育**が重要

夫婦共働き世帯が増加する中で、若い世代ほど「父親も育児に積極的に参加すべき」と考える割合が高い



**仕事と子育て等の両立を希望する男女ともに働き続けることができる職場環境**づくりが重要

祖父母による育児・家事の手助けが望ましい、親(配偶者の親)との近居を理想の住まい方と考える県民が多い



**祖父母世代の子育て支援が進むような環境**づくりが重要

- 基本的な生活習慣の傾向
- ゲームやメールの時間と学校以外の勉強時間の傾向 など

- 「自分のことが好き」な子どもの割合
- 「自分のことが好き」と「夢や将来の希望がある」との関係 など

- 「大切にされている」、「意見をきいてくれる」などの子どもと大人の意識の差
- 「大切にされている」、「意見をきいてくれる」と「自分のことが好き」との関係 など

- 近所付き合いの程度
- 近所の大人からほめられり、注意されたこと
- 子どもの体験とコミュニケーション能力との関係 など

- 高校生の結婚観や家族観と赤ちゃんや小さい子どもとふれあった経験との関係
- 父親の育児参画についての意識
- 祖父母による育児・家事の手助けについての意識 など

子どもをとりまく背景を統計データなどから整理します。

# 第1章

---

## －子どもの生活－

この章では、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」結果を中心に、子どもの生活の状況などをみます。

家庭生活では、朝食の摂取状況や起床、就寝の習慣などの項目については、全国と同じような傾向を示していますが、ゲームや、スマートフォン等で通話やメール、インターネットをする時間が全国と比べて長く、学校の授業以外の勉強時間が短い傾向が見られます。

学校生活では、80%以上の子どもが学校に行くのは楽しいと感じており、全国と同じような傾向を示しています。

社会生活では、地域の行事に参加する割合は全国より高い傾向にありますが、地域や社会の出来事への関心や地域や社会をよくするために何をすべきか考える割合などは全国よりも低い傾向を示しています。



## (1) 家庭での生活

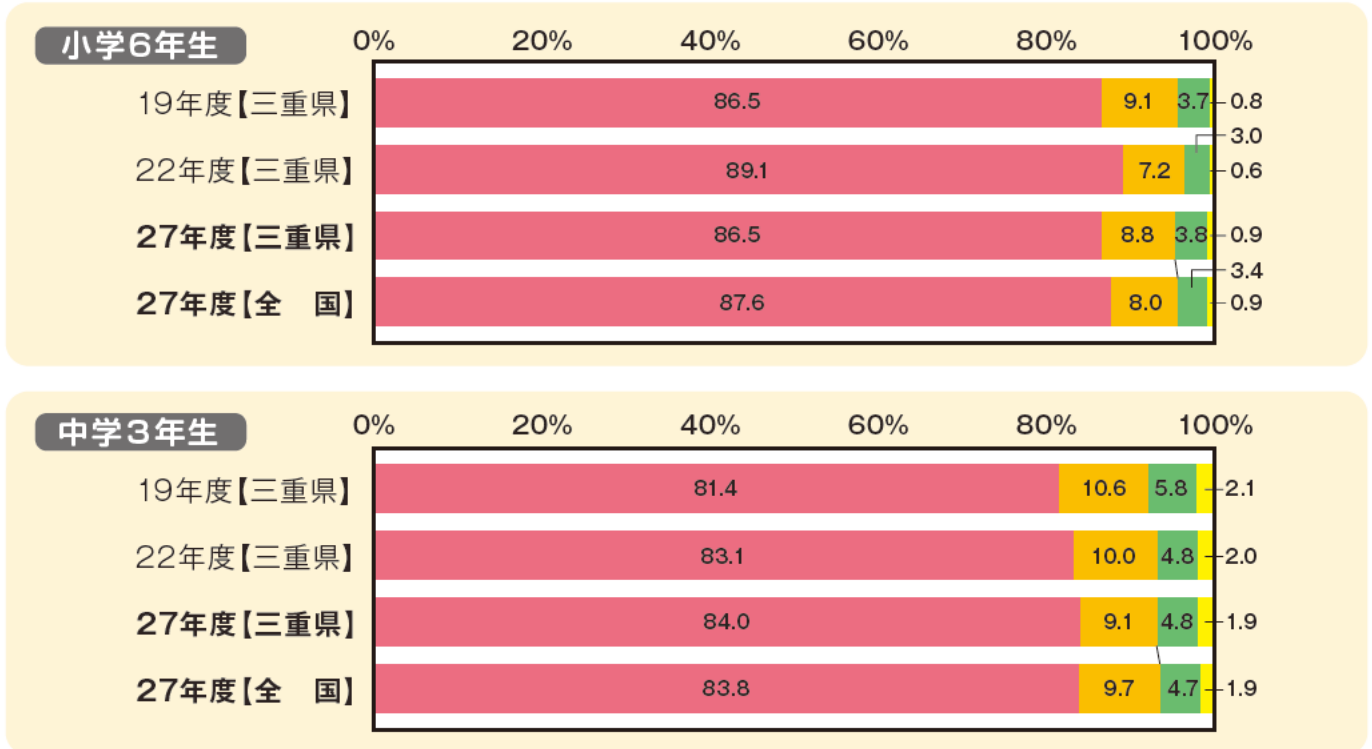
### ●約7人に1人が毎日朝食を食べていない。

毎日朝食を食べている小学生は86.5%と全国より低く、中学生は84.0%と全国とほぼ同じです。

図1-1 朝食の摂取状況

Q. 朝食を毎日食べていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

注：「全国学力・学習状況調査」について

●設問によっては、毎年実施していないものがあるため、脚注にて記載した。

●毎日、同じくらいの時刻に起きている子どもは半数以上。

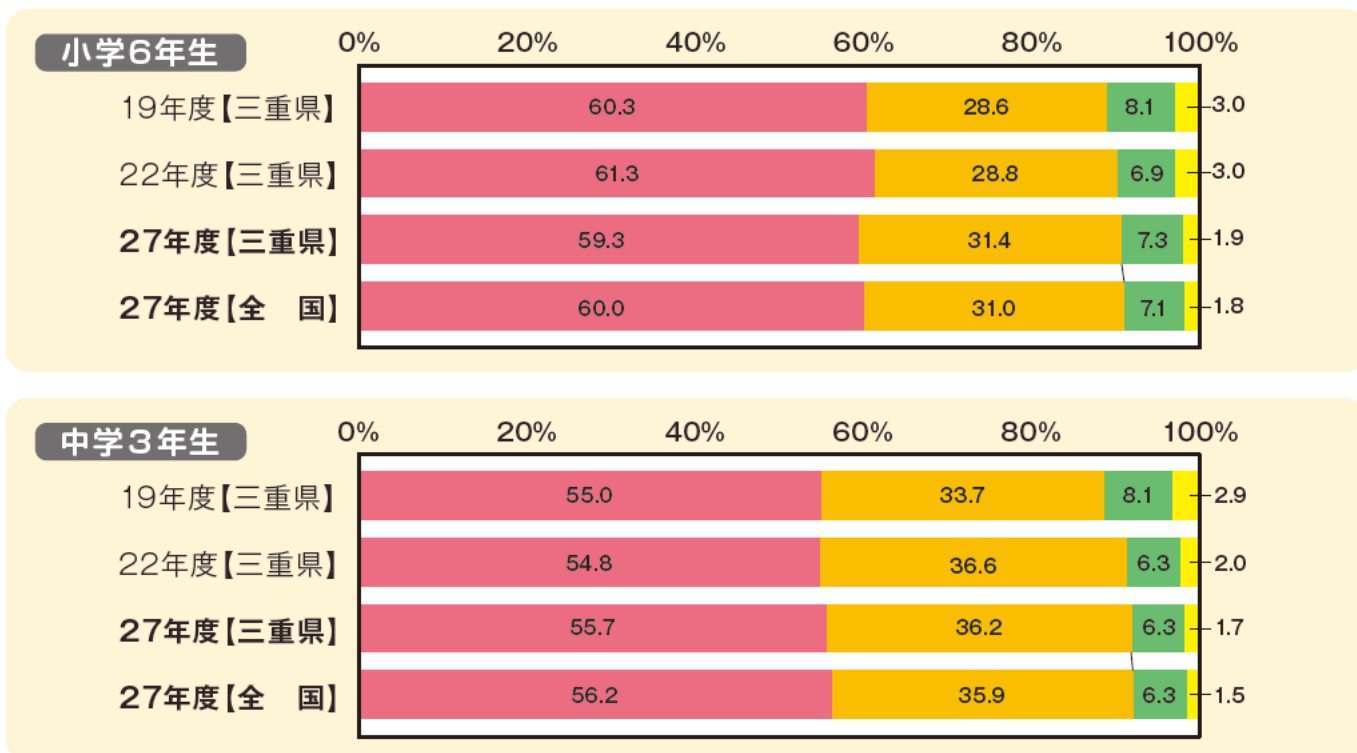
起床時刻について「毎日、同じくらいの時刻に起きている」小学生は59.3%、中学生は55.7%となっており、ともに全国とほぼ同じです。

図1-2 起床の習慣

Q. 生活の中で次のようなことをしていますか。

毎日、同じくらいの時刻に起きている。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

●毎日、同じくらいの時刻に寝ている子どもは40%未満。

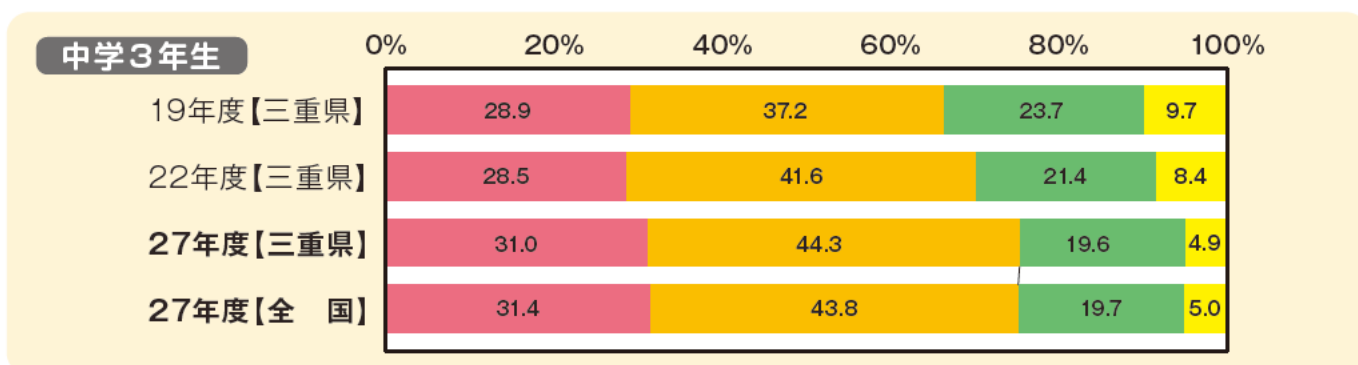
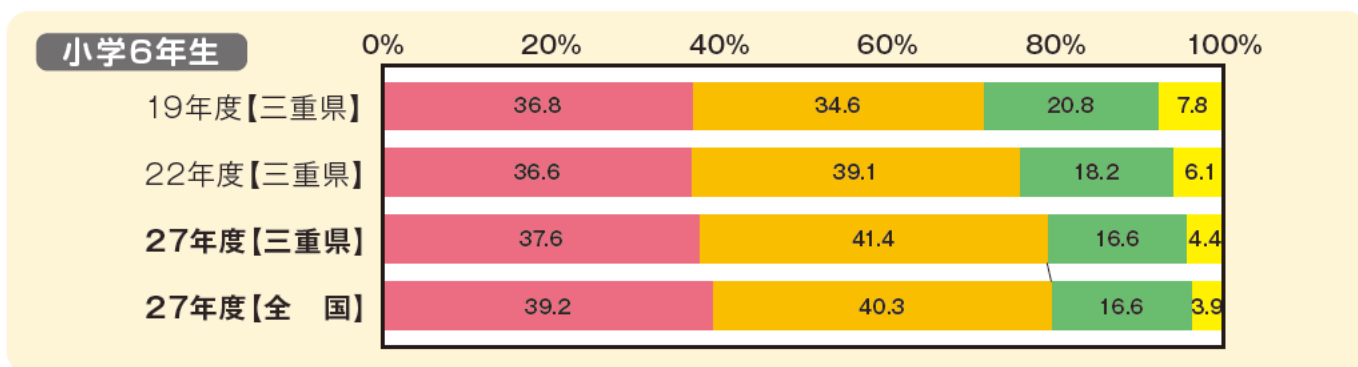
就寝時刻について「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」小学生は37.6%と全国より低く、中学生は31.0%と全国とほぼ同じです。

図1-3 就寝の習慣

Q. 生活の中で次のようなことをしていますか。

毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

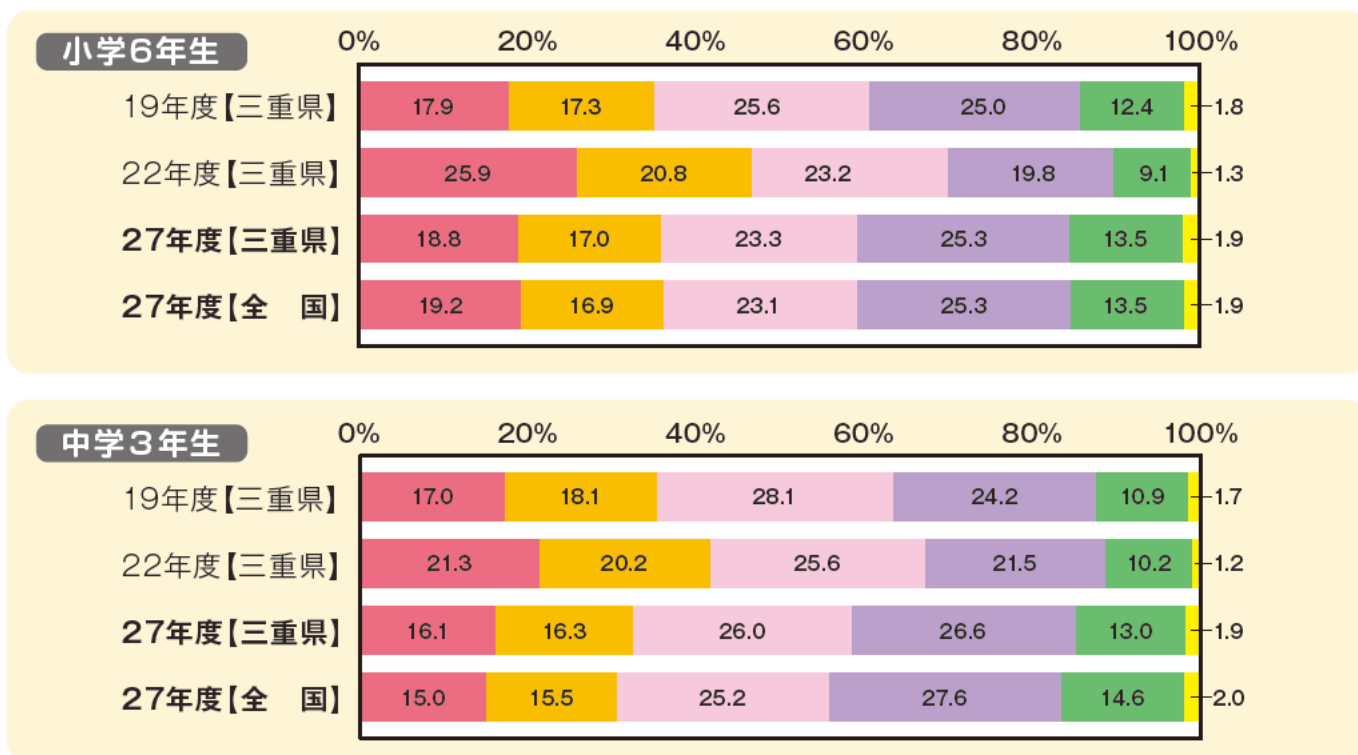
●テレビやビデオ・DVDを見る時間は、小学生、中学生ともに「1時間以上、2時間より少ない」が最も多い。

普段(月～金曜日)にテレビやDVD・ビデオを見る時間は、小学生、中学生ともに「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ25.3%、26.6%と最も多くなっています。

図1-4 テレビ等の鑑賞時間

Q. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)

■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない  
 ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない ■ 全く見たり、聞いたりしない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

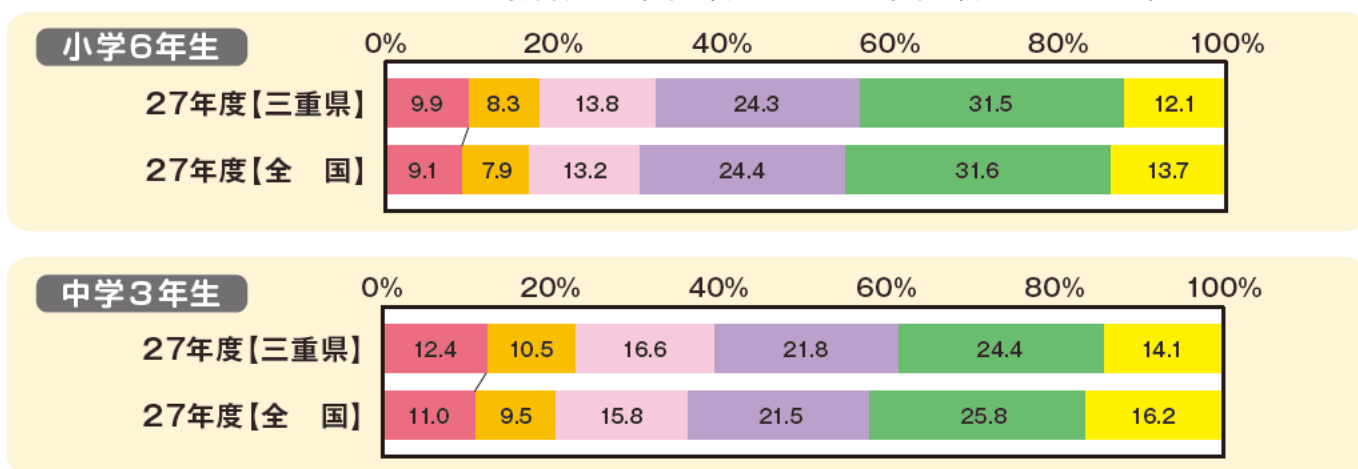
●ゲーム時間は「1時間より少ない」が最も多い。

「普段、1日当たりどれくらいの時間ゲームをしますか」という質問に対して、「1時間より少ない」と答えた小学生の割合は31.5%、中学生は24.4%となっています。また、「4時間以上」と答えた割合は、小学生・中学生ともに全国より高くなっています。

図1-5 ゲームをする時間

Q. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。

■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない  
 ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない ■ 全くしない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

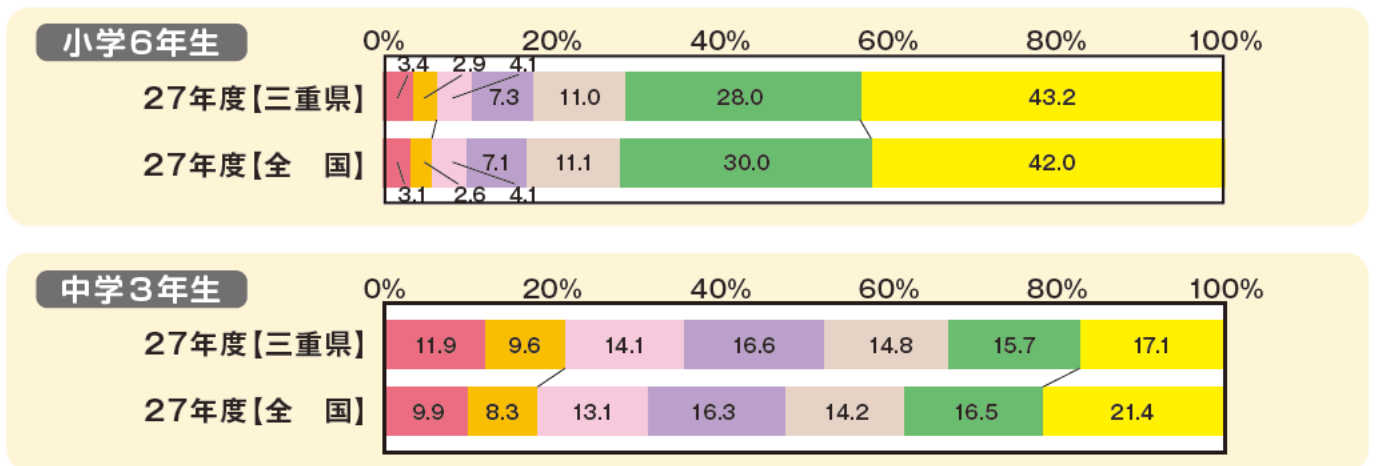
●中学生は携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が全国より長い。

「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」という質問に対して、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた小学生の割合は43.2%、中学生は17.1%で、中学生は全国より4.3%ポイント低くなっています。また、「3時間以上」と答えた中学生の割合は全国より高くなっています。

図1-6 メールやインターネット

Q. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)。

- 4時間以上   ■ 3時間以上、4時間より少ない   ■ 2時間以上、3時間より少ない   ■ 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない   ■ 30分より少ない   ■ 携帯電話やスマートフォンを持っていない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

## (2) 学習時間等

### ●小学生、中学生ともに学校の授業以外で1時間以上勉強する割合は全国より低い。

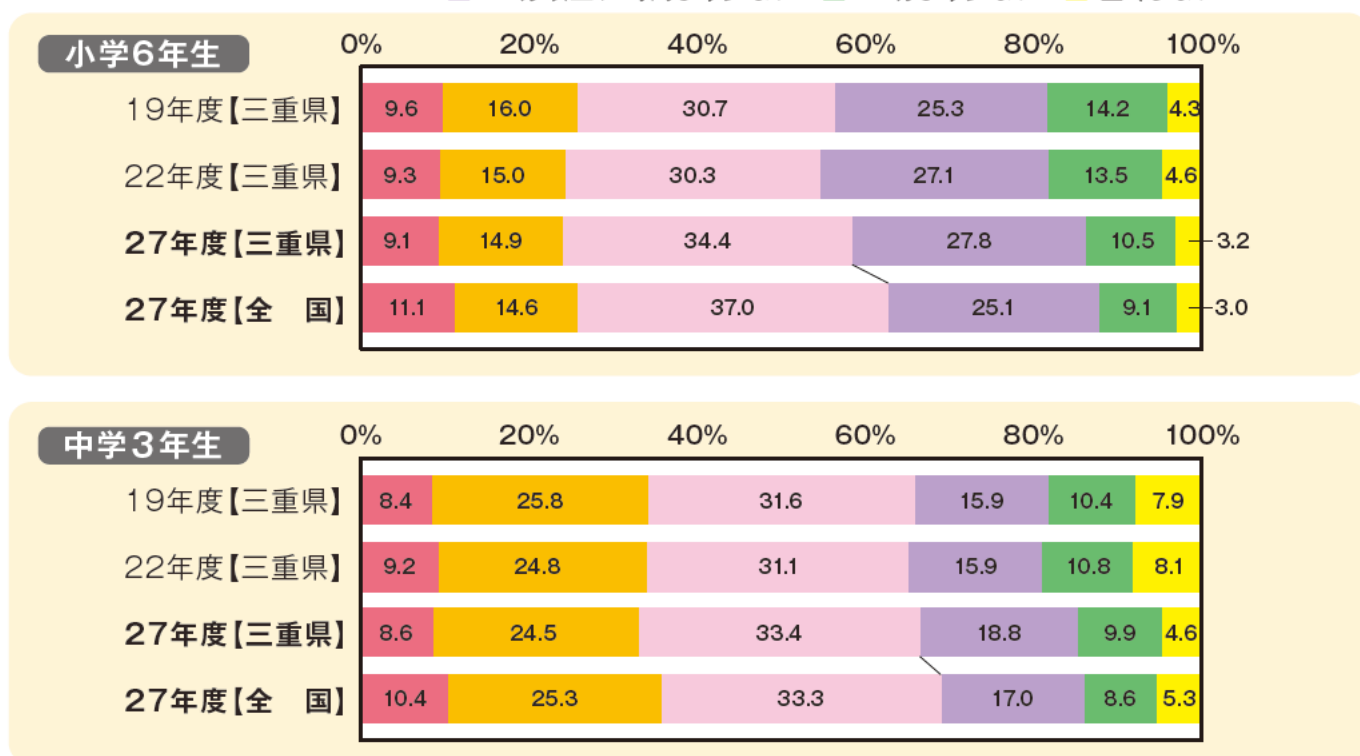
平日の、学校での授業時間以外の1日当たりの勉強時間は、小学生・中学生ともに「1時間以上2時間より少ない」が最も多く、それぞれ34.4%、33.4%となっています。「1時間以上」の割合は、小学生・中学生ともに全国より低くなっています。

図1-7 自宅での勉強時間

Q. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない  
 ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない ■ 全くしない



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

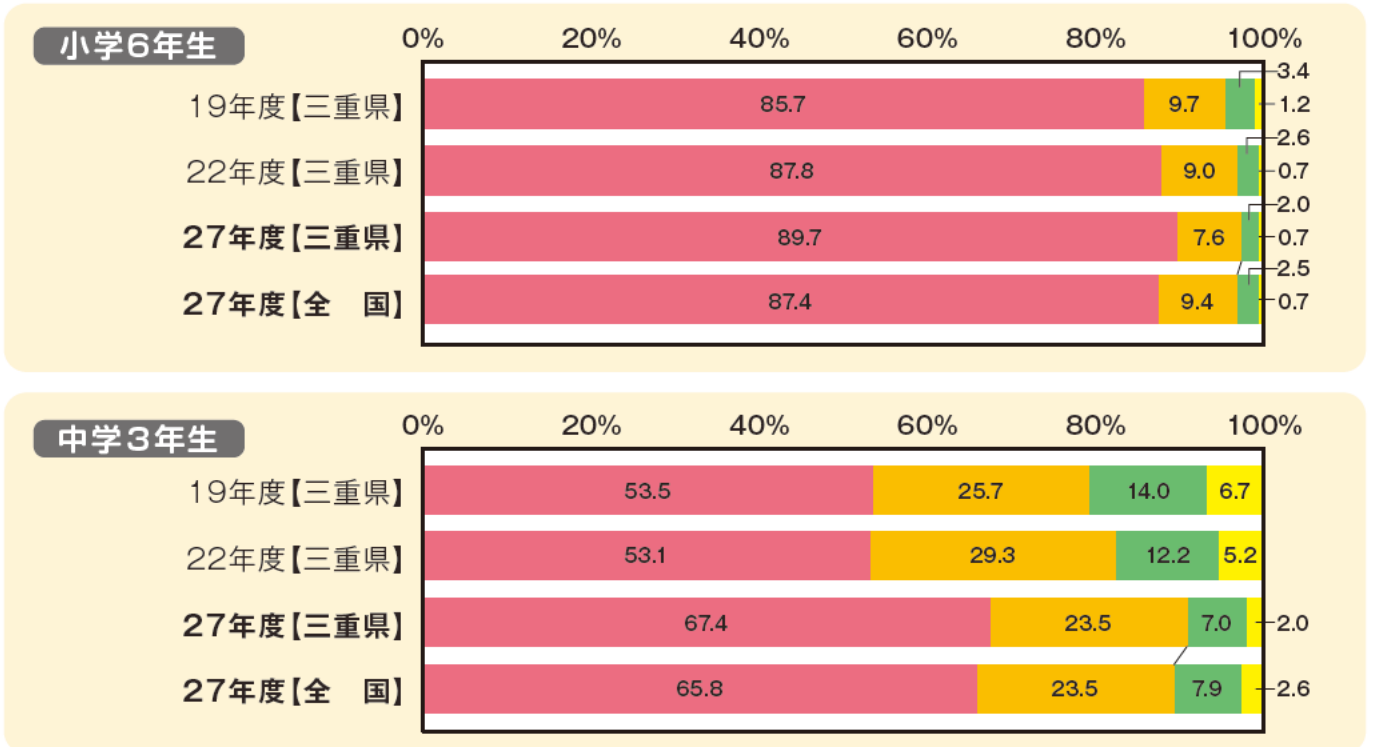
●家で、学校の宿題をしている小学生は80%以上、中学生は60%以上。

家で、学校の宿題を「している」小学生は89.7%、中学生は67.4%となっており、ともに全国より高くなっています。

図1-8 自宅での宿題

Q. 家で、学校の宿題をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」



●家で予習・復習をしている子どもは増加傾向にある。

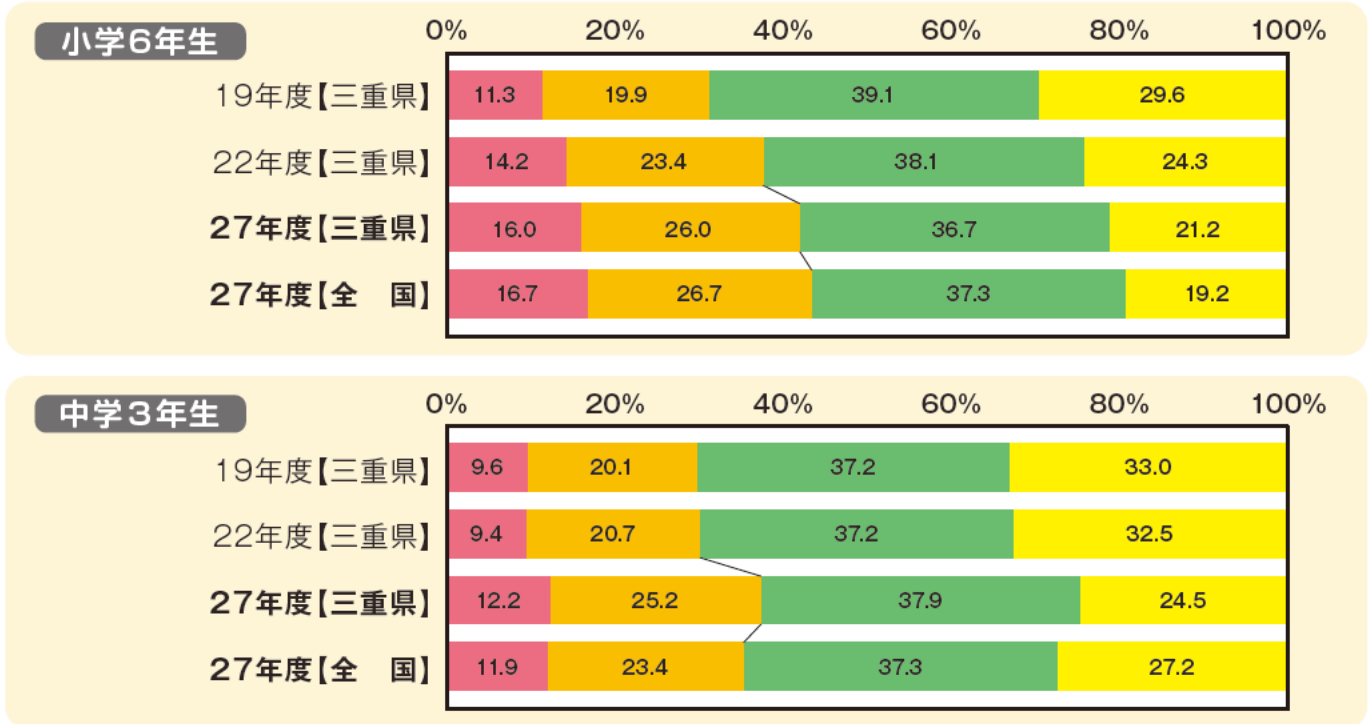
家で予習を「している」「どちらかといえば、している」小学生は42.0%、中学生は37.4%で、小学生は全国より低くなっていますが、ともに22年度より増えています。

同様に、家で復習を「している」「どちらかといえば、している」小学生は50.1%、中学生は48.9%で、ともに全国より低くなっていますが、22年度より増えています。

図1-9 自宅での予習状況

Q. 家で、学校の授業の予習をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない

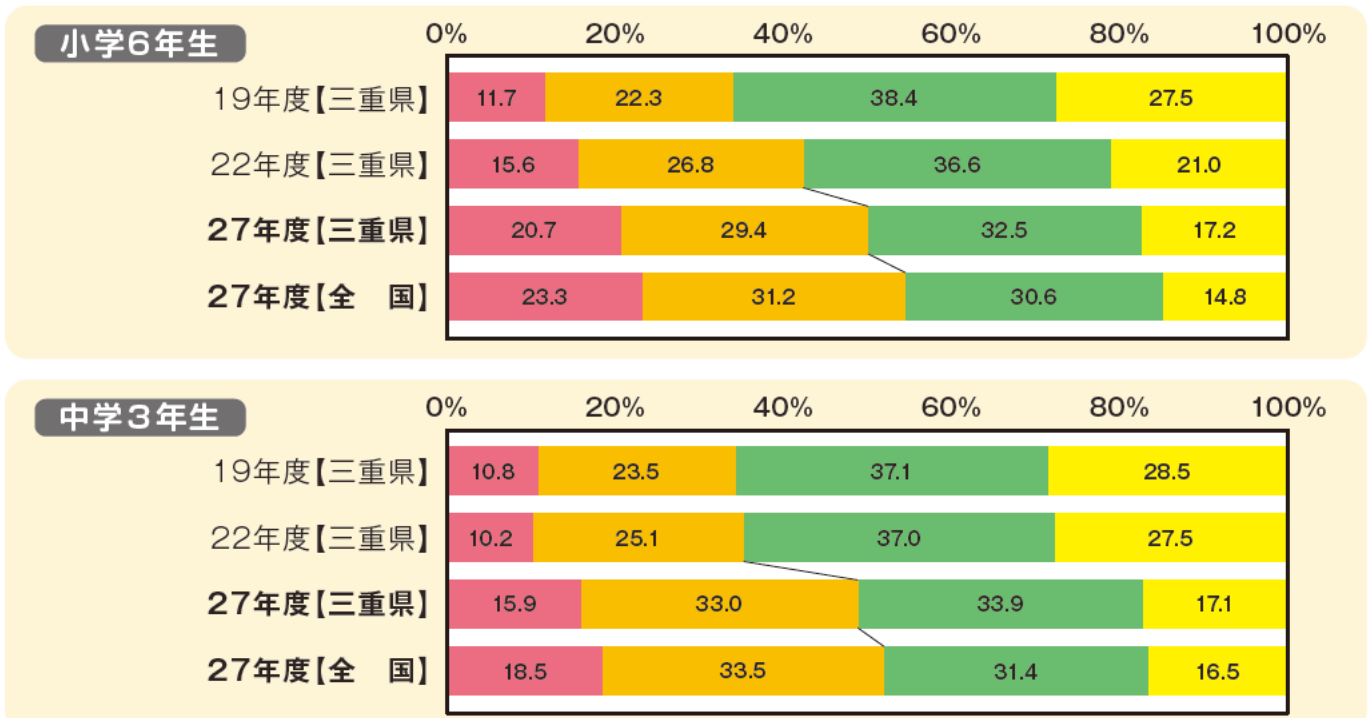


資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

図1-10 自宅での復習状況

Q. 家で、学校の授業の復習をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

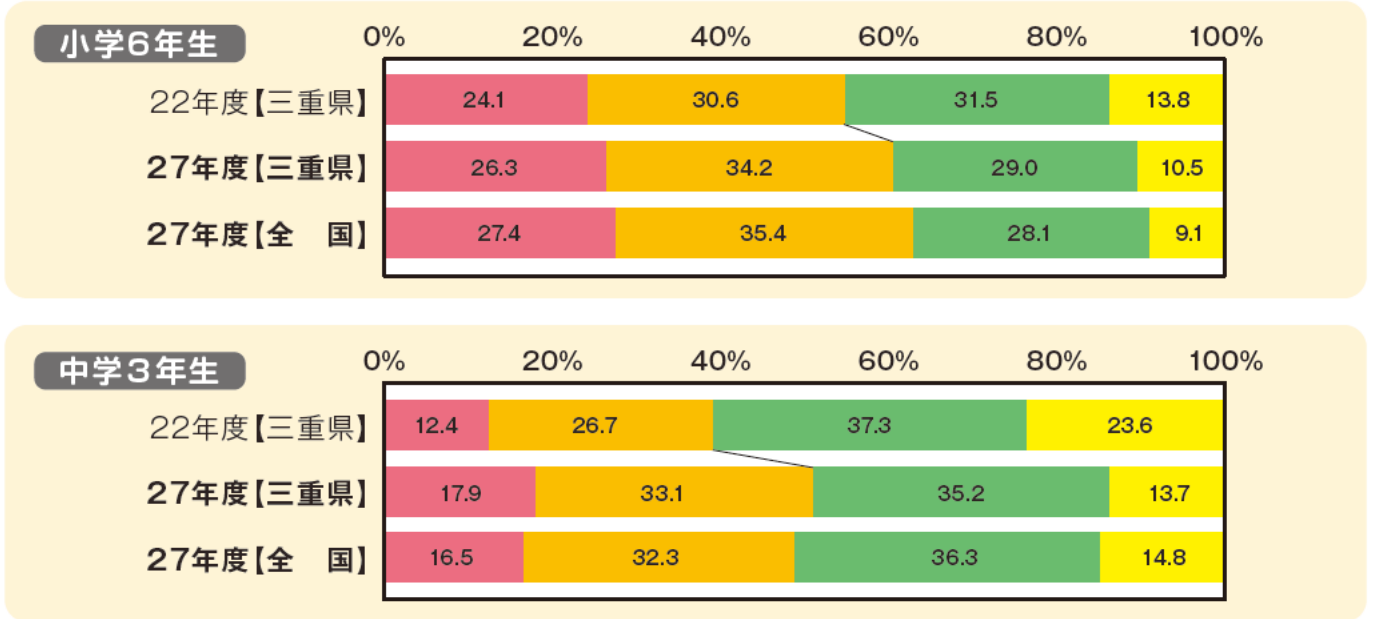
●家で、自分で計画を立てて勉強している子どもは22年度より増えている。

家で、自分で計画を立てて勉強を「している」、「どちらかといえば、している」小学生は60.5%、中学生は51.0%となっており、ともに22年度よりも増えています。

図1-11 勉強の計画性

Q. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

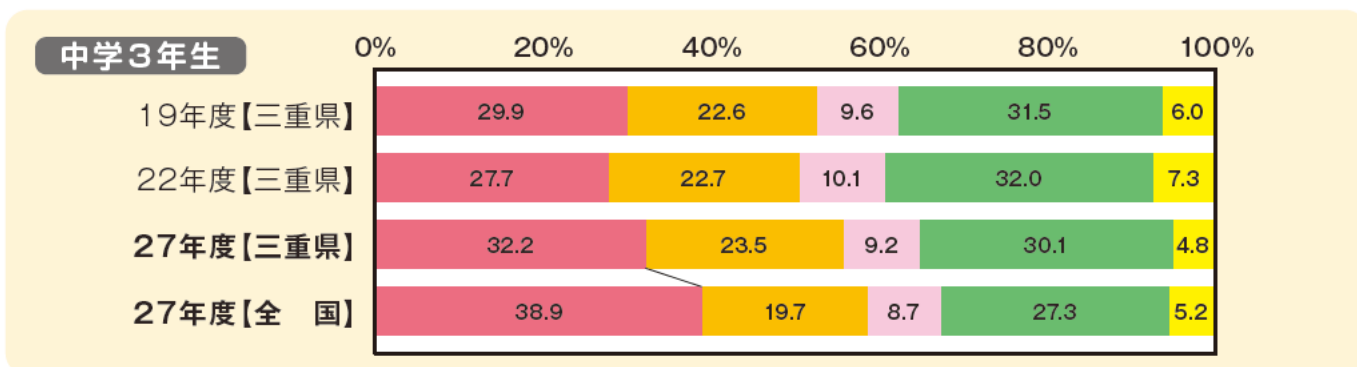
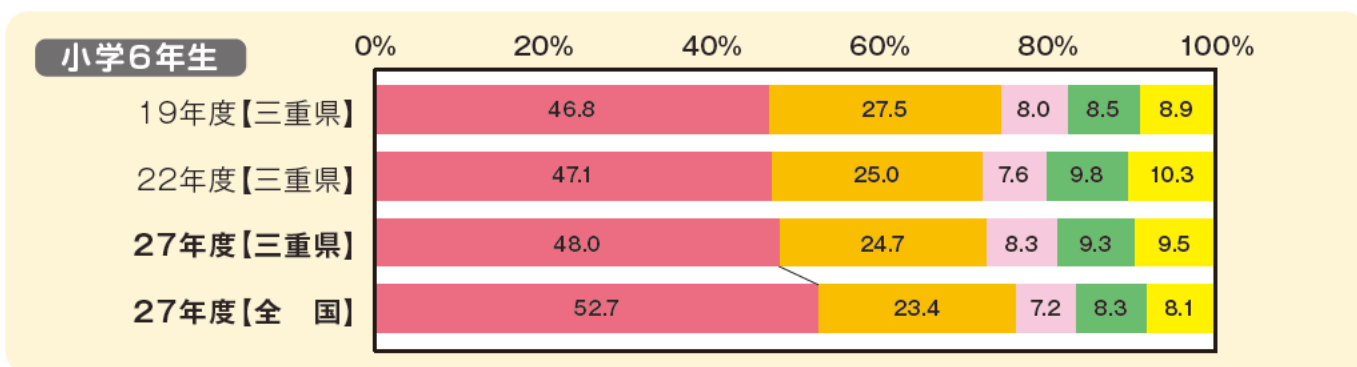
●小学生の50%以上、中学生の約70%が塾に通い、その割合は全国よりも高い。

学習塾に通っている小学生の割合は51.8%、中学生は67.6%で、小学生・中学生ともに全国より高くなっています。

図1-12 塾などでの学習

Q. 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか。

- 1.学習塾に通っていない
- 2.学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している
- 3.学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している
- 4.上記2、3の両方の内容を勉強している
- 5.上記2、3の内容のどちらともいえない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

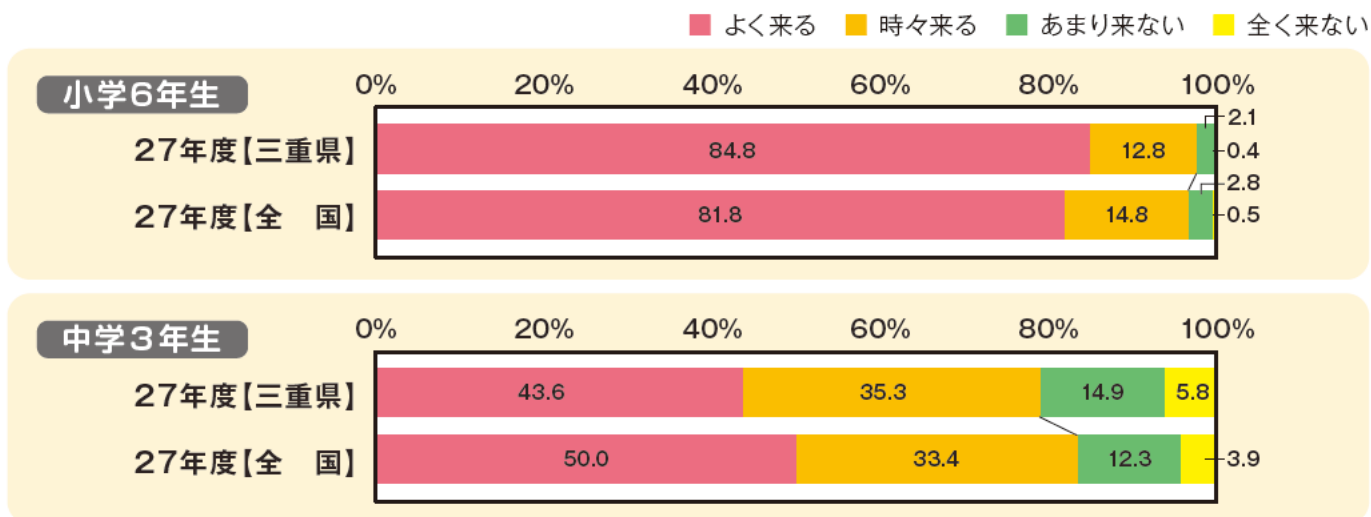
### (3) 家族の学校行事への参加状況

●家族が学校の行事に来る小学生は90%以上、中学生は70%以上。

家族が学校の行事に「よく来る」「時々来る」小学生は97.6%、中学生は78.9%となっており、中学生の割合は全国よりも低くなっています。

図1-13 家族の学校行事への参加状況

Q. 家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

(1) 学校生活

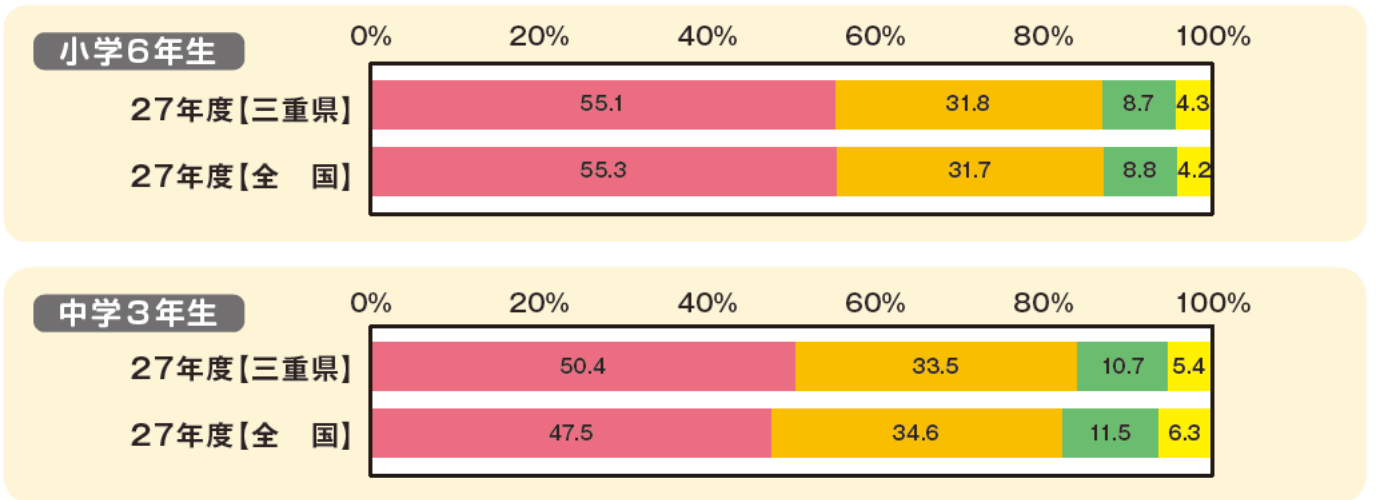
●80%以上の子どもが学校に行くのは楽しいと思っている。

学校へ行くのが「楽しい」「どちらかといえば、楽しい」小学生は86.9%、中学生は83.9%となっており、いずれも80%を超えています。

図1-14 学校の居心地

Q. 学校に行くのは楽しいと思いますか。

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

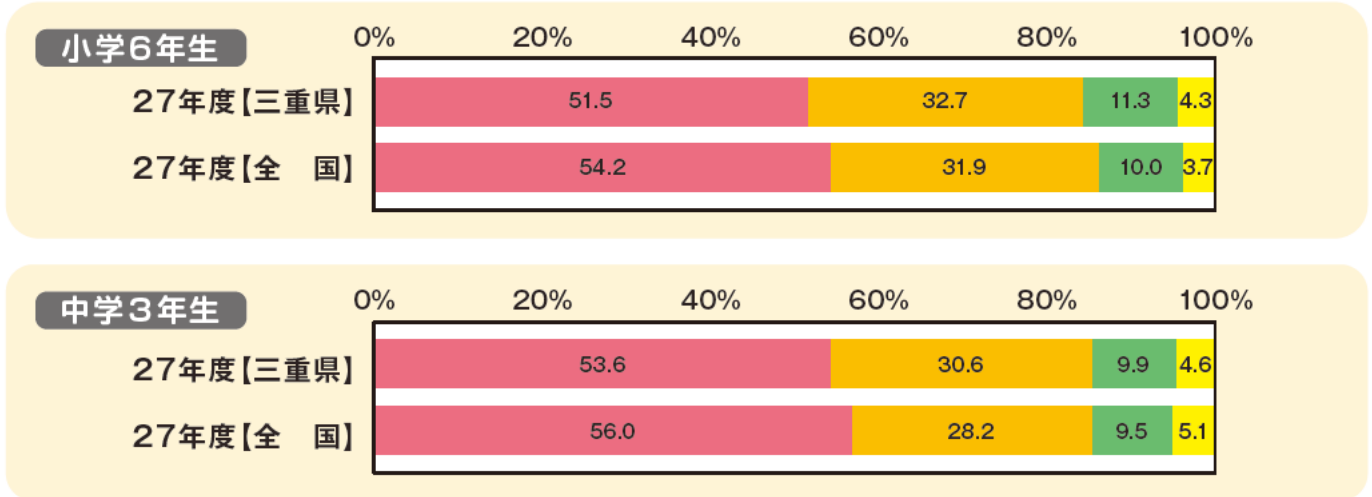
●80%以上の子どもが、学級みんなで協力して何かをやり遂げてうれしかったことがある。

学級みんなで協力して何かをやり遂げてうれしかったことが「ある」「どちらかといえば、ある」小学生・中学生は、いずれも84.2%となっており、多くの子どもが学級みんなで協力して何かをやり遂げてうれしかった経験をしています。

図1-15 学級での状況

Q. 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

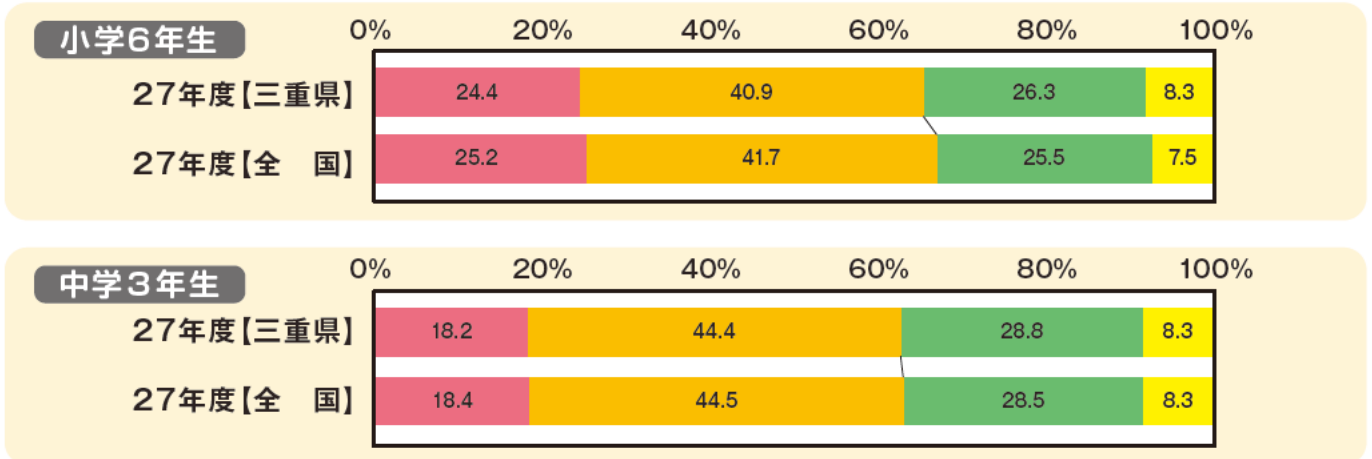
●学級の友だちと話すことで、自分の考えを深め、広げることができていると思っている子どもは60%以上。

学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが「できている」「どちらかといえば、できている」小学生は65.3%、中学生は62.6%となっており、いずれも60%を超えています。小学生は全国より低くなっています。

図1-16 学級の友だちとの関係

Q. 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

(1) 地域との関わり

●地域の行事に参加している小学生は70%以上、中学生は50%以上で、全国より多い。

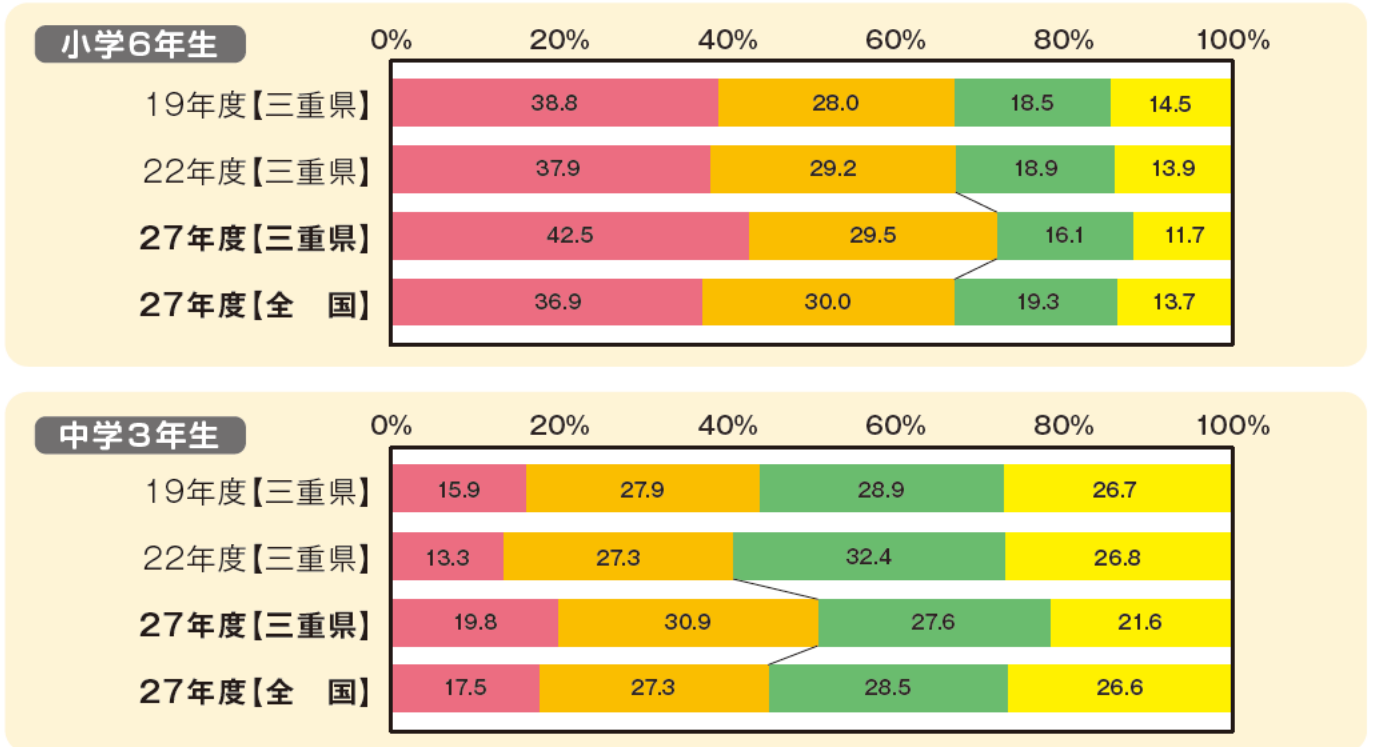
今住んでいる地域の行事に参加していることに対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」小学生は72.0%、中学生は50.7%で、いずれも22年度より増えており、全国よりも高くなっています。

図1-17 地域とのつながり

Q. あなたにどれくらい当てはまりますか。

今住んでいる地域の行事に参加していること。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

## (2) 社会に対する興味・関心

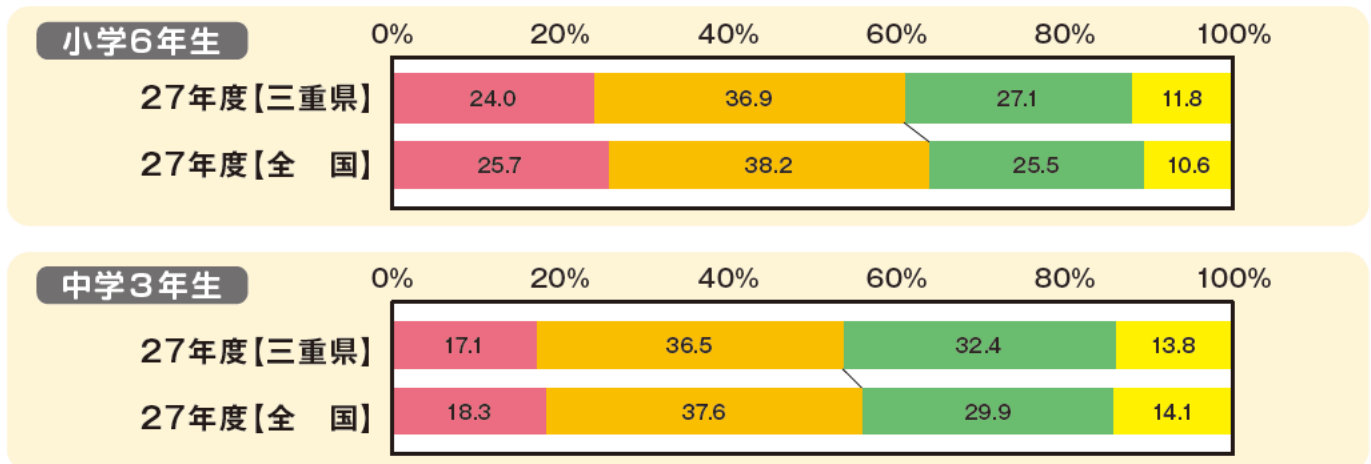
- 地域や社会の問題や出来事に関心がある小学生は60%以上、中学生は50%以上で全国よりも低い。

地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」「どちらかといえば、関心がある」小学生は60.9%、中学生は53.6%で、ともに全国よりも低くなっています。

図1-18 地域や社会に対する関心

Q. 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

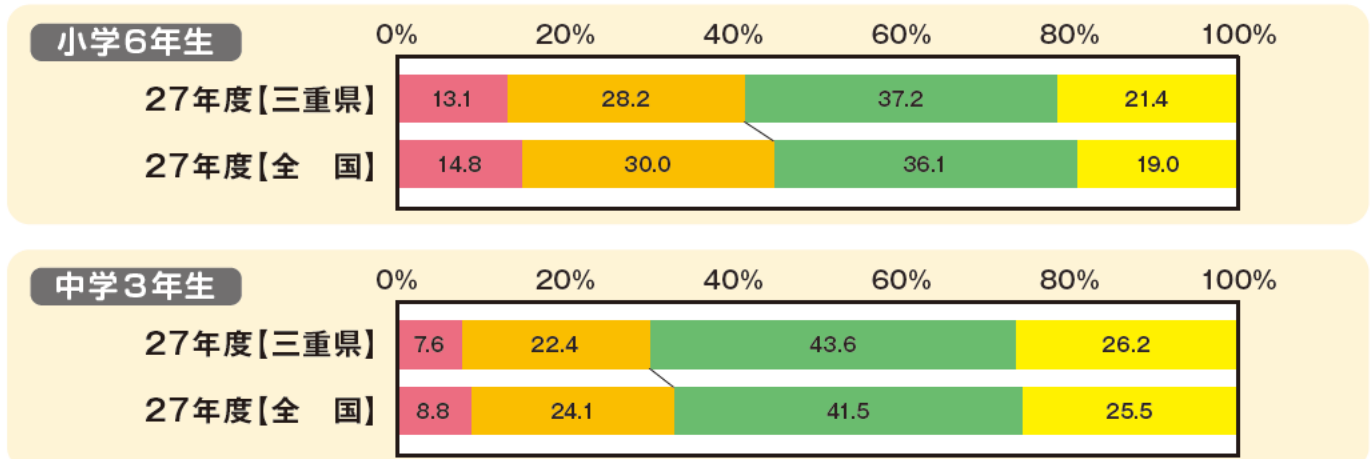
- 地域や社会をよくするためにすべきことを考えたことが「ある」または「どちらかといえば、ある」子どもは50%以下。

地域や社会をよくするためにすべきことを考えたことが「ある」「どちらかといえば、ある」小学生は41.3%、中学生は30.0%で、ともに全国よりも低くなっています。

図1-19 地域や社会をよくするために考えること

Q. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」



●テレビやインターネットのニュースを見ている子どもは80%以上。

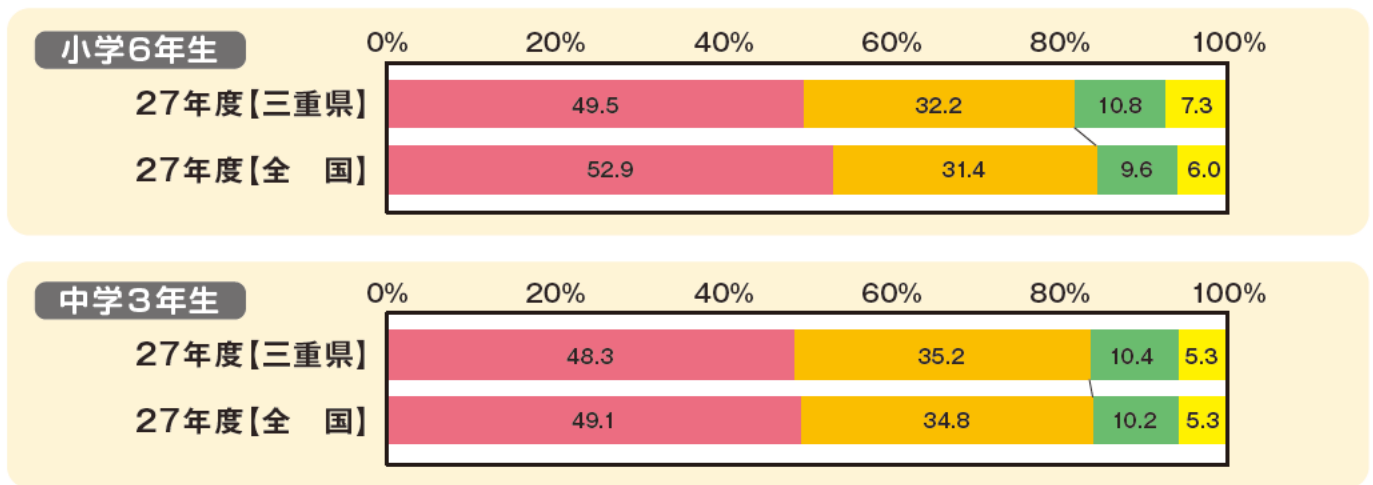
テレビやインターネットのニュースを「よく見る」「時々見る」小学生は81.7%、中学生は83.5%で、ともに全国よりも低くなっています。

図1-20 ニュース番組の視聴

Q. テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)

■ よく見る ■ 時々見る ■ あまり見ない ■ ほとんど、または、全く見ない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

## 第2章

---

### －子どもの気持ち－

この章では、「三重県子ども条例に基づく調査」（子どもや保護者、県民のみなさんへのアンケート調査）の結果を中心に、「自分のことが好き」や「夢や将来の希望がある」といった子どもの自己肯定感やつらい気持ちになるときの状況などをみます。

「自分のことが好き」と答える子どもの割合は前回調査よりも高くなっていますが、高校生は依然として半数以下にとどまっています。

また、「夢や将来の希望がある」子どもの割合は、小学生では85%を超えていますが、中学生、高校生では70%前後と低くなっており、高校生は前回調査よりも低くなっています。

この「自分のことが好き」と「夢や将来の希望がある」には関係がみられません。

つらい気持ちになるのは、小学生では「友だちと仲良くできないとき」が最も多いですが、中学生や高校生では「テストの点や成績が悪いとき」が最も多くなっています。

なお、20%近くの子どものがつらい気持ちになったときに「がまんする」と答えています。

規範意識では、「人の気持ちができる人間になりたい」や「いじめはどんな理由があってもいけない」などの項目で高い意識がうかがえます。

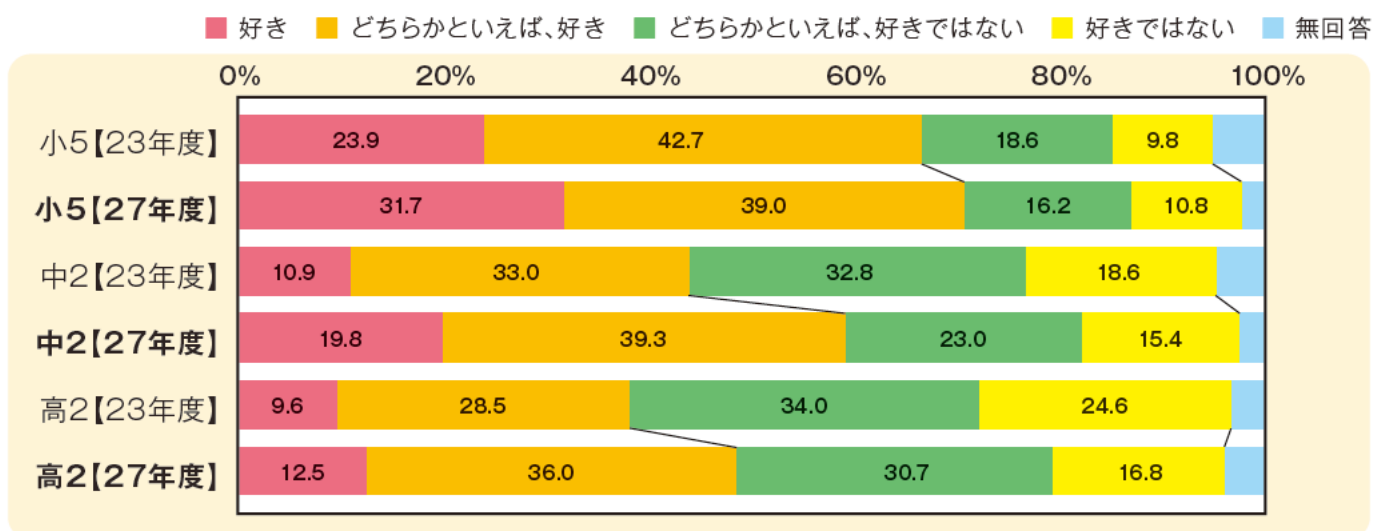
## (1) 自尊意識

●自分のことが好きな子どもの割合は、子どもは自分のことが好きだと思う保護者の割合よりも低い。

「自分のことが好きですか」という質問に対して、「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた割合は、小学生が70.7%、中学生で59.1%で、前回の調査より小学生で4.1ポイント、中学生で15.2ポイント高くなっています。自分の子どもが自分のことを好きだと「思う」「どちらかといえば、思う」保護者は、小学生の保護者で92.5%、中学生の保護者で85.0%となっており、子どもよりも高い割合になっています。また、自分のことを好きだと「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた高校生の割合は前回の調査よりも高くなっていますが50%以下にとどまっています。

図2-1 自分のことが好きか

Q. あなたは、自分のことが好きですか。

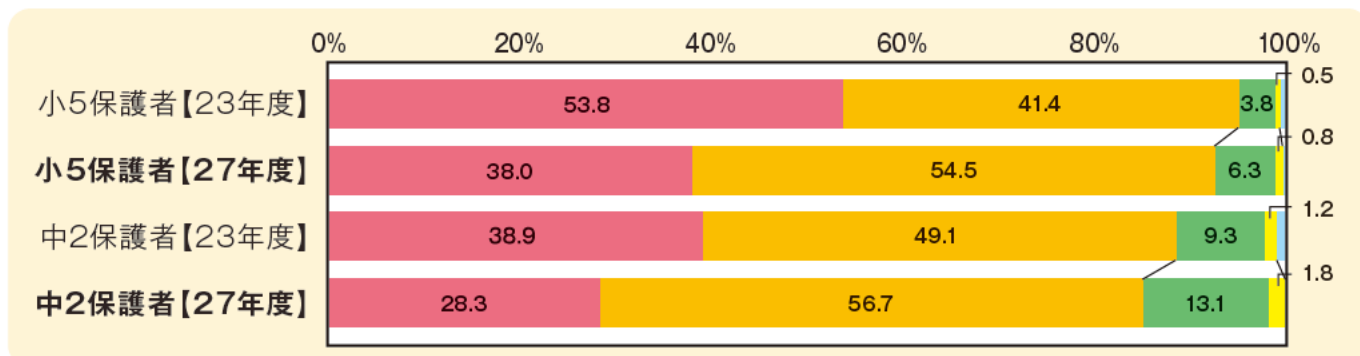


資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図2-2 大人から見た子どもの自分への意識

Q. あなたのお子さまは、「自分のことが好きだと思っている」と思いますか。

■「好き」だと思う ■「どちらかといえば、好き」だと思う ■「どちらかといえば、好きではない」と思う ■「好きではない」と思う ■無回答



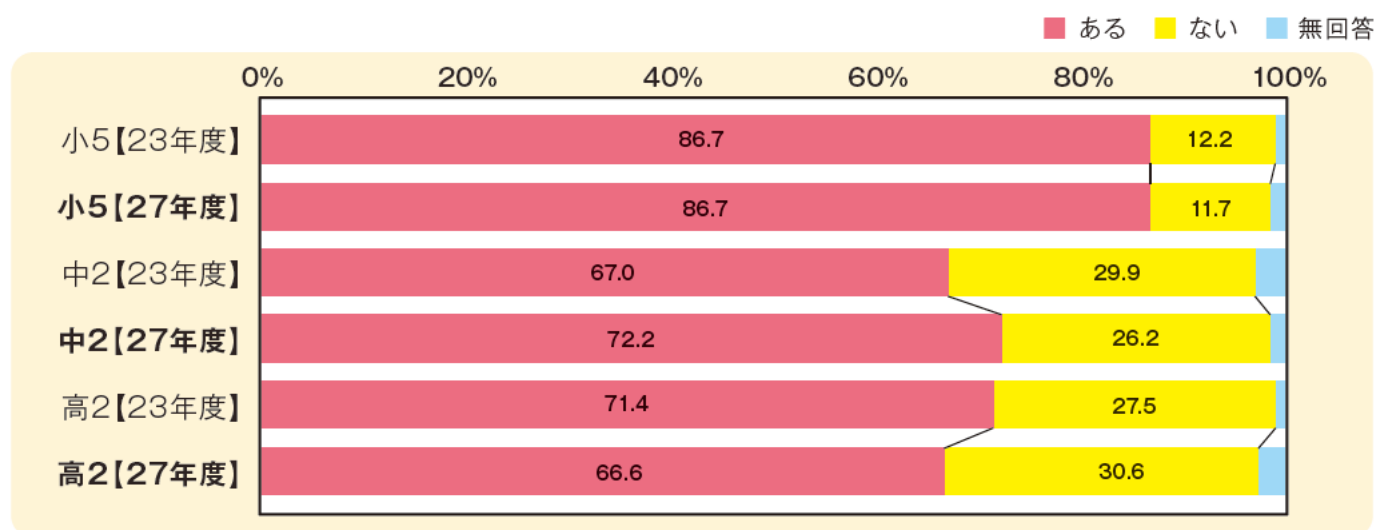
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●夢や将来の希望がある小学生は85%を超え、中学生・高校生は約70%。

「夢や将来の希望がありますか」という質問に対して、「ある」と答えた割合は、小学生で86.7%、中学生で72.2%、高校生66.6%となっており、前回の調査より、小学生は変わりませんが、中学生は5.2ポイント高く、高校生は4.8ポイント低くなっています。

図2-3 夢や将来の希望

Q. あなたには、夢や将来の希望がありますか。



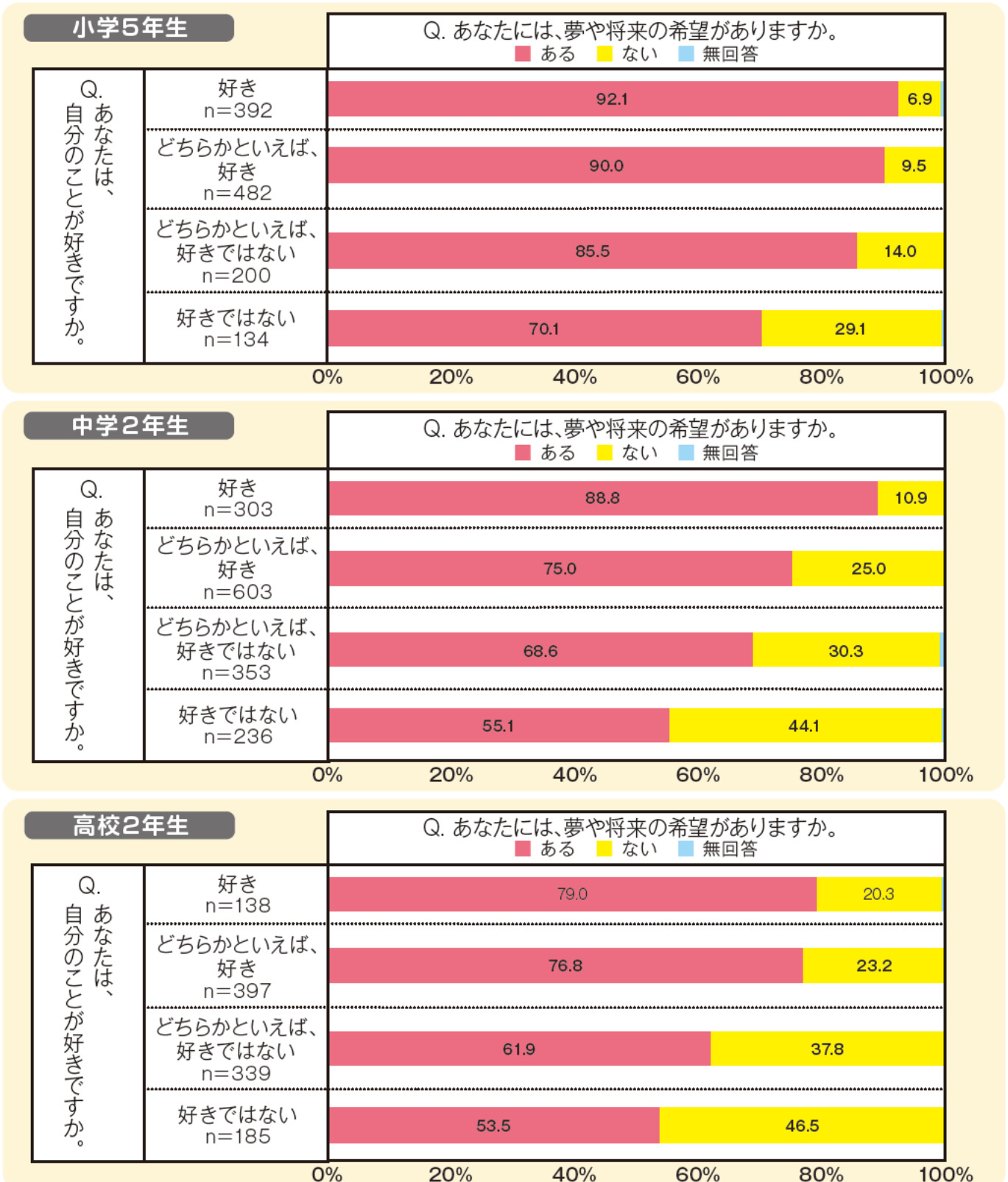
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●自分のことが「好き」な子どもは「好きではない」子どもより「夢や将来の希望がある」割合が高い。

「自分のことが好き」と「夢や将来の希望がある」の関係を見ると、「夢や将来の希望がある」と答えた小学生の割合は、自分のことが「好き」と答えた子どもでは92.1%であるのに対し、「好きではない」と答えた子どもでは70.1%と低くなっています。

同様に、「夢や将来の希望がある」中学生の割合は、自分のことが「好き」と答えた子どもでは88.8%、「好きではない」と答えた子どもでは55.1%、高校生では、自分のことが「好き」と答えた子どもでは79.0%、「好きではない」と答えた子どもでは53.5%となっており、自分のことが「好き」と答えた子どもの方が「好きではない」と答えた子どもより「夢や将来の希望がある」割合が高くなっています。

図2-4 「自分のことが好き」と「夢や将来の希望」との関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

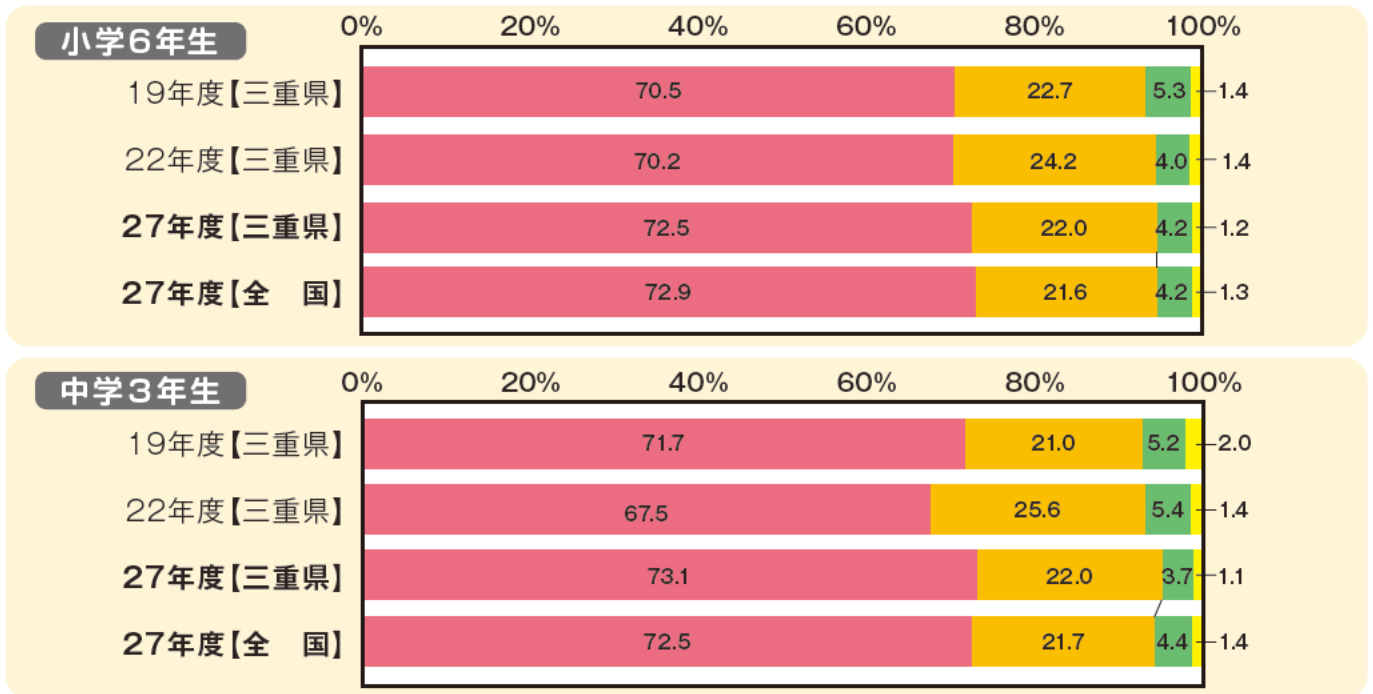
●**ものごとをやり遂げて、うれしかった経験がある子どもは90%以上。**

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことが「ある」「どちらかといえば、ある」小学生は94.5%、中学生は95.1%となっており、ともに全国とほぼ同じです。

図2-5 達成感

Q. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

●**難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している子どもは約70%。**

難しいことでも、失敗を恐れなくて「挑戦している」「どちらかといえば、挑戦している」小学生は76.6%、中学生は69.7%で、ともに22年度より高くなっています。

図2-6 挑戦することへの意識

Q. 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

## (1) 規範意識

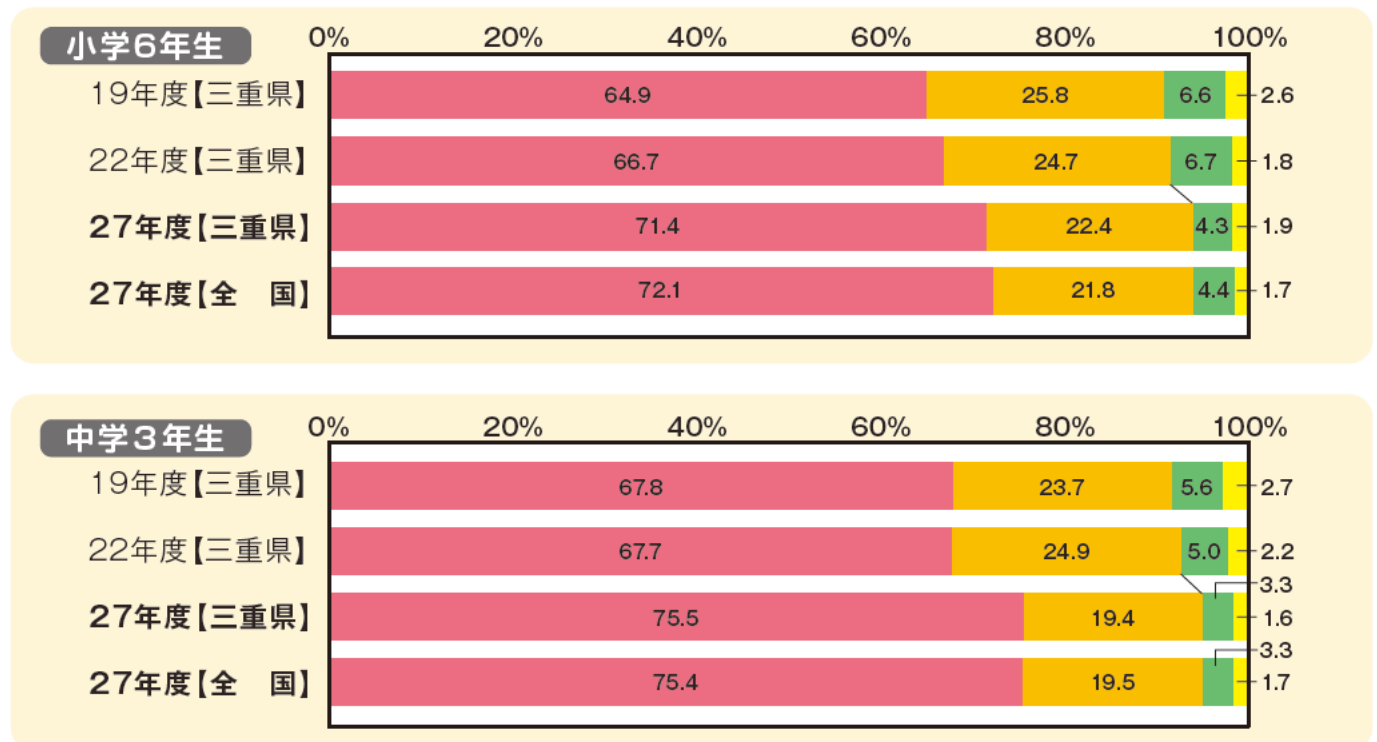
●90%以上の子どもが人の気持ちがわかる人間になりたいと思っている。

人の気持ちがわかる人間に「なりたい」「どちらかといえば、なりたい」と答えた小学生は93.8%、中学生は94.9%で、いずれも90%を超えており、22年度より高くなっています。

図2-7 人の気持ちが分かる人間になりたいか

Q. 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

●90%以上の子どもが人の役に立つ人間になりたいと思っている。

人の役に立つ人間に「なりたい」「どちらかといえば、なりたい」と答えた小学生は93.7%、中学生は94.1%で、いずれも90%を超えており、ともに全国とほぼ同じです。

図2-8 人の役に立つ人間になりたいか

Q. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」



●学校のきまり・規則を守っている子どもは90%以上。

学校のきまり・規則を「守っている」「どちらかといえば、守っている」小学生は91.0%、中学生は95.2%で、ともに22年度より高くなっています。

図2-9 校則について

Q. 学校のきまり・規則を守っていますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

●90%以上の子どもがいじめはいけないことだと思っている。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた小学生は96.5%、中学生は93.9%で、いずれも90%を超えており、ともに全国とほぼ同じです。

図2-10 いじめについて

Q. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



資料:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

## (1) 子どもの悩みと相談相手

●つらい気持ちになるときは、小学生は「友だちと仲良くできないとき」、中学生・高校生は「テストの点や成績が悪いとき」が上位を占めている。

「つらい気持ちになるのはどんなときか」の質問に対して、最も割合が高くなっているのは、小学生は「友だちと仲良くできないとき」で49.7%、中学生・高校生は「テストの点や成績が悪いとき」でそれぞれ66.8%、54.3%となっています。

また、「つらい気持ちになったときに、どうしますか」という質問に対して、「自分でなんとかしようとする」と答えた割合は小学生は24.0%、中学生は30.7%、高校生は33.7%、「がまんする」が小学生は21.3%、中学生は17.7%、高校生は16.4%となっています。

図2-11 つらい気持ちになるとき

Q. あなたがつらい気持ちになるのはどんなときですか。(複数回答・いくつでも)

項目	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	27年度	23年度	27年度	23年度	27年度	23年度
家の人と仲良くできないとき	28.4	③39.3	③25.7	28.4	19.4	31.9
友だちと仲良くできないとき	①49.7	①64.8	②57.2	②62.9	②52.9	①61.4
授業がよくわからないとき	23.5	34.5	24.5	③34.4	18.7	27.1
テストの点や成績が悪いとき	②45.6	②55.5	①66.8	①65.9	①54.3	②50.2
受験や進路のことでうまくいかないとき	10.0	11.3	18.8	27.6	③29.1	③40.7
自分の意見が聞いてもらえないとき	27.4	32.1	24.7	22.8	20.8	28.1
クラブ活動の練習などがきびしいとき	10.4	13.3	24.1	27.2	21.3	19.4
いじめられたとき	③34.6	—	21.5	—	12.9	—
その他	5.0	8.2	5.0	2.8	6.1	6.3
つらい気持ちになったことはない	6.5	4.0	5.9	2.9	4.3	3.4

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

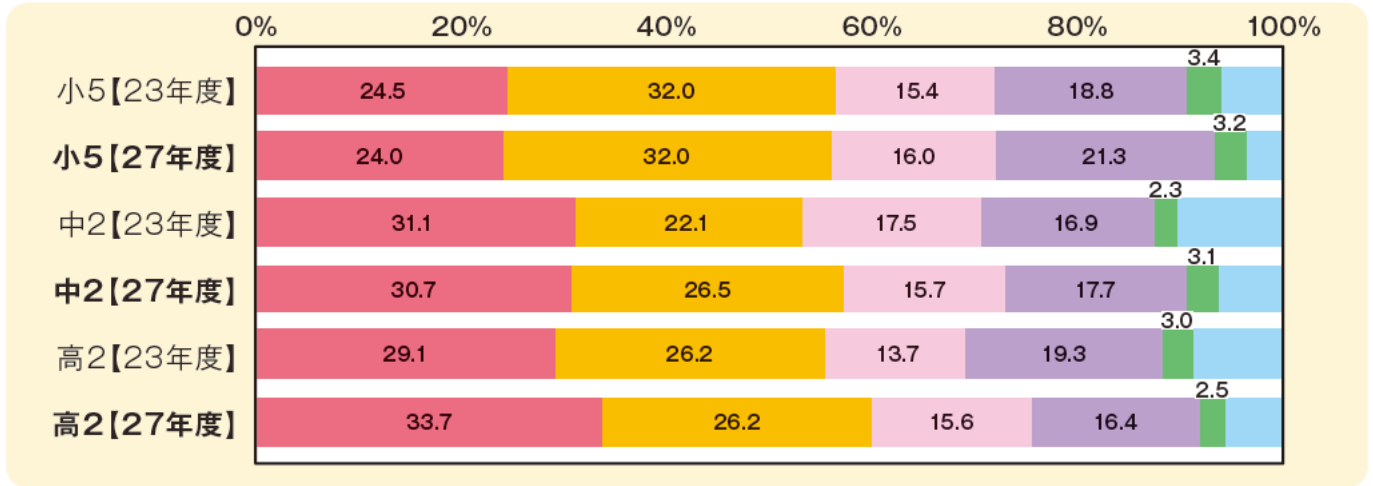
注：①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

注：前回の質問に「いじめられたとき」の選択項目はありません。

図2-12 つらい気持ちになったときの行動

Q. つらい気持ちになったときに、あなたはどのようにしますか。

■ 自分でなんとかしようとする ■ だれかに相談する ■ 気にしない ■ がまんする ■ その他 ■ 無回答



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●**悩みの相談相手は、小学生は「親(保護者)」、中学生と高校生は「友だち」が最も多い。**

「困ったことや悩みがあったとき、だれに相談しますか」という質問に対して、小学生は「親(保護者)」と答えた割合が71.7%で、最も高くなっています。

一方、中学生・高校生は「友だち」と答えた割合がそれぞれ64.9%、70.9%と最も高くなっています。

図2-13 悩みの相談相手

Q. あなたは、困ったことや悩みがあったとき、だれに相談しますか、あるいはしようと思いますか。  
(複数回答・いくつでも)

項目	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	27年度	23年度	27年度	23年度	27年度	23年度
親(保護者)	①71.7	①70.8	②52.5	②55.8	②48.7	②50.2
兄弟姉妹	③21.1	③22.9	15.9	③18.7	15.5	③20.0
おじいさん、おばあさん	13.9	18.3	7.4	6.6	3.6	4.9
親せき	3.6	—	3.0	—	1.1	—
友だち	②46.1	②58.9	①64.9	①67.0	①70.9	①70.2
学校の先生	③21.1	19.1	16.4	12.7	9.3	12.7
児童福祉施設の先生・スタッフ	0.6	0.1	0.5	0.4	0.0	0.3
学童保育や児童館のスタッフ	0.6	0.3	—	0.4	—	0.3
フリースクールのスタッフ	0.2	0.0	0.4	0.2	0.0	0.4
塾や習い事の先生、スポーツクラブのコーチ	4.3	4.7	4.8	4.6	1.3	2.9
近所の知りあいの人	1.9	1.0	1.2	0.7	0.5	1.1
専門の相談機関(病院や児童相談所など)	0.6	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6
電話での相談	1.2	0.7	0.9	1.0	1.0	1.0
インターネットでの相談	0.6	1.6	3.4	3.8	3.2	4.7
その他	1.5	1.9	1.4	1.5	1.6	3.2
誰にも相談しない	13.7	11.9	③19.3	11.8	③17.0	10.6

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

注: 前回の質問に「親せき」の選択項目はありません。

注: 今回の中学2年生と高校2年生の質問に「学童保育や児童館のスタッフ」の選択項目はありません。

注: ①.②.③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。